

Susono City

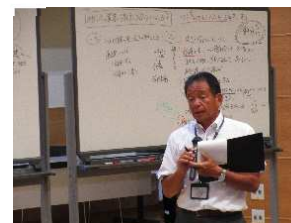


“学びの森”だより

令和元年度
第7号昼カフェ増刊号
9月2日発行

8/7 開催
昼カフェ

「教師力 パワーアップ研修会」



(松本大学 岩間英明教授)

「これからの裾野市の教育をリードしてもらいたい」、そんな思いで、今回の研修を企画しました。夏休み中だったので、何人集まるのか不安もありましたが、20代から40代まで、24人の先生方が参加してくださいました。

研修会は、子供、授業、組織、働き方改革の4つのグループに分かれ、それぞれのグループで、各学校の現状や自分自身が感じていること、これからの方向性などについて、意見交換をしました。どのグループでも活発に話し合う先生方の姿が見られ、頼もしさを感じました。「同年代の人と語り合う」という、今回の研修の大きな目的も、ほぼ達成されたように思います。

講師の岩間英明先生（松本大学教授）からは、最後に、提言をしていただく中で、「常識を疑え」という言葉がありました。この言葉は、これからの方向性として、参加者の心の中に強く残ったようです。短い時間でしたが、中身の濃い有意義な研修になりました。

Aグループ：子供の人間関係作りをどのように支援していけばよいか



上記のテーマについて、各自が学級経営上の課題を出し合い、次の2点に絞り、解決の方策について協議を進めました。

1点目「個別対応を要する子供（特別支援、不登校）」について、事例の紹介から、ねらいを持って会議（学年、ケース）を開き、関わる教職員が共通理解の下、取り組む大切さを再確認しました。

2点目「子供同士の人間関係作り」については、子供同士の振り返る場面を意図的に設定することや、子供同士の問題への教師の関わり方についても話題になり、カウンセラー等の専門家との連携を生かし、子供の思いを尊重しつつ、子供同士が課題を解決できるように還していく意見が出ました。

2つの協議を通して、教員同士が同じ方向性をもって教育に当たることが大切であると改めて実感しました。

Bグループ：子供が深い学びを体感する授業を創るにはどうすればよいか



深い学びには、能動的な「学び」が不可欠であり、子供たちの「～したい」という気持ちをどう引き出すかが鍵となります。そのために、学びの環境を整える、導入・課題・終末を工夫する、質の高いインプットをする、アウトプットの場をつきたい力と照らし合わせて設定するなど、授業でできることを具体的な場面に基づいて出し合いました。また、これらのアイデアや授業実践を、学校の研修とどうつなげていけばよいか、学び続ける教師を支える校内研修の在り方についてまで、話し合いは続けました。その中で、教師一人一人が主体的に進め、「自分事になる研修」を積み重ねていきたいという願いが共有されました。具体的に何を考え、何をしたらよいか、誰にとってもわかりやすい研修内容であることが大切で、校内研修の充実が、子供の深い学びへと繋がると考え、これからの研修を充実させていこうと意欲を高めました。

Cグループ：チーム学校と言われる現在、今日的な学校組織はどうあるべきだろうか？



自校での実践を出し合う中で、教職員の年齢構成や男女の比率の面で、バランスの保たれていない実態が浮き彫りになりました。若手とベテランとに二極化している状況下で、ミドルリーダーといわれる30代、40代の先生方の果たす役割について、討議が続きました。結論にまでは至らなかったのですが、若手のモデルとなったり、ベテラン教員の考えに学びながらも、ミドルとしての自己の考えを伝えたりしながら、「繋ぎ役」になることが役割であると確認されました。教職員に限らず、子供を支える多くのスタッフとの繋がりも大事にし、全体を巻き込むようにして、みんなが働きやすい学校づくりに参画することの必要性について話し合いが進んでいきました。

また、ミドルリーダーの年齢は、子育て世代でもあります。限られた時間の中で、メリハリをつけた働き方を考え、個人の経験や感覚のみに頼るのではなく、誰もが業務内容を把握できるよう、システム化を図ることも大事であるという考えにたどり着きました。周囲の人の発する困り感にも気付ける感性を持つこともミドルリーダーの条件なのでしょう。

Dグループ：本当に今の業務は必要なものなのか？



教員の働き方改革をテーマに話し合いが行われました。現在勤務している学校を見つめ、自分や同僚の働き方について、「今やっている業務は教育に必要なか」という視点で洗い出すことから始めました。始業前に行われている活動、様々な会議、行事や部活動など、当たり前と思われる業務について捉え直す必要があることが共有されました。朝の運動や行事など子供が行う教育活動の是非を考える際、これまでは子供の側からの視点が足りなかったという意見が出ました。やりたい子がやれるシステムに変えていくことも必要という意見も出ました。

働き方改革を考える上で、勤務時間への意識を持つことが重要で、全員がやる価値があるものは、勤務時間内でやることや、スタプラのように子供と直接的に関わる業務は減らすべきでないとの考えが共有されました。

(参加者の感想を紹介します)

- ☆良い授業にするために、子供たちと良好な人間関係を築くために、働きやすい職場にするために、「どうすればよいか（方法論）」ばかり考えていました。でも、本当に大切なのは、「子供にとってどうなのか」「教師の集団としてのあり方」なのだと感じました。教師力とは、「子供と共に歩める力である」という言葉を胸に、子供たちと同じ目線で見ることも大切にしながら、頑張っていきたいと思います。
- ☆岩間先生の「常識を疑え」という言葉は、自分もすごく納得ができました。子供も時代も大きく変わる中で、教員の世界だけが変わっていかない、変化が鈍感な気がします。常に学び続ける姿勢を大切にしていきたいと思います。
- ☆大切だと分かっていたが、なかなか深く考えることなく生きてしまったことについてじっくり考えることができました。話し合う中で、自校の課題、他校の先生の感じている課題が見えてきました。解決などに向けて意見を聞く中で、①自分でできそうなこと、②今まで分かっていたが手を出していなかったこと、③すぐには解決できないが意識しておくことが必要なことなど、2学期からの取り組みについて方向性を持つことができました。



編集・発行：“学びの森”

〒410-1102 裾野市深良 435 番地(生涯学習センター2階)

TEL : 055-995-4903 FAX : 055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>

